

神無月晦日、攝津茨木にてY先生より業捨を受く。

業捨とは弘法大師空海唐土より持ち歸りたる行法にて、心身に附着せる業を密教の法力を以て捨て去るものなり。具體的には皮膚を指先にて輕擦し人間の潜在意識を掃除するの技法なり。

先づ佛壇に拜禮す。次に上半身は白のTシャツ下半身は女性用パンティストッキングに著替へよ、とのこと。パンスト着用は初めての経験なれば思ふやうに穿くを得ず、かなり手間取りぬ。Y先生、このTシャツ、パンストの上から指先にて輕擦す。輕擦とは言へども其の痛み堪へ難し。ノートルダム清心女子大學の保江教授の表現に依らば「その痛さは、五寸釘をブスツと刺して、それを刺したままグツと横に動かしたかと思ふほど」なり。(風雲舎刊「愛の宇宙方程式」より)。

余、以前にも他の場所にて業捨を経験せり。其の時も保江教授の文章讀みて覺悟を決め赴きたれど痛み左程にはあらず。保江教授の表現大袈裟なるや、將又余は業少なきや等と思ひぬ。然れども今回の痛み全く異質なり。Y先生曰く、「あらゆる修行の内にも最も痛みもこのやも知れず。」

此の痛み傷に非ず。業、體內より除かるるに抗ひて左腦を欺き強烈なる痛みを感じしむるも、業捨終れば言ふことなし。又皮膚表面には「罪色」即ち鞭打ちの痕の如く烈しき變色起くるも、當日風呂に入りても沁み痛みなし。一週間程にて變色も消え去れり。皮膚は腦腸との關係深きものにて、發生學的には共に外胚葉より生ずるなり。腦は顯在意識、皮膚は潜在意識を掌り、ストレスにて硬直せし皮膚を摩擦することにより皮膚呼吸や血液循環を促進、身體を拂ひ清むるなり。

人間の業は本人の物のみに非ず。家族周囲の人々先祖更には職場の他人等の業も引き受くる事ありとの由。それらの業も捨て去るべきものなり。又瞑想の習慣持ちたる人は、業捨の中忽ち瞑想状態となる事あるやに聞く。胃に古き潰瘍の痕二箇所ありと指摘せらる。心當り無し。

堪へ難き痛みなれど、約一時間にて終了せば氣分爽快なり。體調も良好にて業捨前との變化を實感す。近々再度試みると欲す。